

## 年頭のごあいさつ

### さらなる飛躍の年に

市民の皆さん、新年明けましておめでとうございます。

皆さんにおかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日ごろから市政に対する温かいご支援とご協力をいただき、心から厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、年の世相を表す漢字「災」のとおり、全国各地で自然災害の脅威に見舞われた年でありました。7月に四国地方を襲った豪雨、相次ぐ台風の上陸、北海道においても、6月中旬からの低温と7月の長雨、そして8月の高温やその後の台風などで、収穫期を迎える農作物の影響が心配されていた中、9月6日に発生しました北海道胆振東部地震は、私たちの日常生活に大きな不安を与えました。

三笠市においては、震度5強ではありましたが、幸い電気も比較的早く復旧し、まち全体でも大きな被害はなく安堵したところであります。しかし、今回の地震によるブラックアウトを受け、市民の安全安心を確保するため、災害に強いまちづくりに取り組んでいかなければいけないと強く感じた次第であります。

さて、本市のまちづくりに目を向けますと、昨年は前小林市政から受け継いだまちづくりの芽が少しずつ花を咲き始め、新しい三笠市の第一歩を踏み出した一年であったと思います。その一つとしては、皆さんもご承知のとおり、昨年7月22日に三笠高校生レストラン「MIKASA COOKING ESSOR」がオープンを迎えたことです。オープンにあたって、林芳正文部科学大臣、高橋はるみ北海道知事をはじめ、国会議員、北海道議会議員ほか多くの関係者の出席とともに、三笠高校OBの俳優 小日向文世さんにも駆けつけていただき、多くの市民が見守る中、華々しくオープニングセレモニーを執り行うことができました。

また、オープン前の7月16日には、高校生レストランの視察に野田聖子総務大臣が来市し、高校生への激励とともに、参集した市民の皆さんに温かいお言葉をいただくなど、一つの施設のために、現役大臣が2人も三笠市を訪れることは、本市の歴史上初めての出来事でありました。

オープン以後も各地から多くの方々にお越しいただき、高校生レストランはまちに賑わいと大きな変革をもたらしてくれています。現在まで完売の状態が続いていますが、ぜひ今後も市民の皆さんにも高校生レストランに足を運んでいただき、元気いっぱい活躍している高校生を激励していただくとともに、高校生から元気をもらって明るいまちをみんなで作っていきたくて考えています。

また、その他の事業についても昨年は着実に成果を見せた一年となりました。三笠ジオパークについては、道内から修学旅行などでジオパークを活用していただくなど、教育旅行としての位置付けが確固たるものとなり、全国的にも認知度が増し交流人口の増加に繋がっています。また、農業の活性化については、イオンのフードアルチザンツアーも定着し、昨年は東京、大阪、名古屋のほか札幌からのツアーも企画され、イオン農場の観光農園化が着実に進んでいます。石炭の地下ガス化についても一昨年のフィールド実験成功後、昨年は実証実験に向けた適地調査を行うとともに、国に対する財源確保の要請も積極的に行っています。

今年は新たな元号に代わる節目の年であり、干支は亥（イノシシ）であります。行政判断の基本であります「三笠市の市益、市民益」を第一に考え、さらなるまちの発展に向かって「勇往邁進」してまいりますので、引き続き行政に対しご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本年が三笠市にとりましても、市民の皆さんにとりましても、素晴らしい年となりますことを祈念し、新年のご挨拶といたします。

（広報みかさ平成31年1月号に掲載したものです。）